

# 乳牛への飼料用粳米（乾燥粳）多給技術

## 1 はじめに

飼料自給率向上のため、トウモロコシなどに替わる穀物飼料として、水田を活用して生産できる飼料用米の利用推進が求められます。そこで、酪農家に飼料用米を安心して利用してもらうため、分離給与方式で、粳米（粉碎した乾燥粳）を多給する技術を検討したので紹介します。

## 2 濃厚飼料の6割まで粳米を多給

粳米を給与しない慣行メニューを対照区とし、濃厚飼料のそれぞれ30%、60%を粳米で代替した少給区、多給区の3区を設け（表1）、泌乳中後期の乳牛6頭を用い飼養試験を行いました（1期2週間の3×3ラテン方格法）。濃厚飼料は1日に4回の給与（日中4時間おき）としました。

表1 試験飼料の濃厚飼料給与割合

項目	対照区	少給区	多給区
飼料用粳米	-	30.0%	60.0%
市販配合飼料	94.1%	57.6%	18.6%
大豆粕	-	6.7%	16.6%
発酵ビール粕	5.9%	5.7%	5.3%
	100%	100%	100%

## 3 粳米を多給しても乳生産性などに影響なし

試験の結果、分離給与での粳米多給について以下のことが分かりました。

- ・採食量に差はなく、粳米の嗜好性は高く食べ残しはありません（図1）。
- ・乳量や乳成分など生産性は低下しません（図1、2）。乳脂肪率は、粳米の給与量が多くなるに従い高くなる傾向がみられ、粳米（粳がら）により反芻・咀嚼が刺激されることが期待できます。
- ・分離給与の場合でも、第一胃内容液性状、血液性状など健康への影響は特にありません。

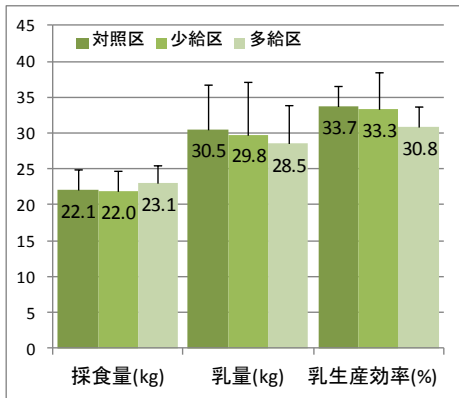


図1 採食量および乳量、乳生産効率

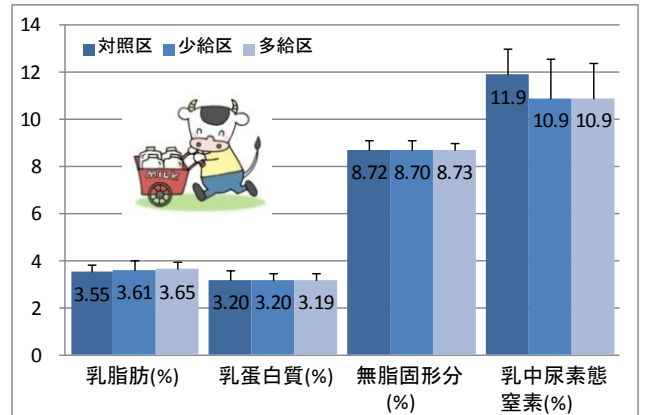


図2 乳成分

## 4 技術の効果およびコスト

粳米を活用することで、飼料費の低減が図られるとともに、輸入飼料への依存度は低くなります（図3）。多給区では約1割の飼料費削減が見込まれます。

## 5 技術利用の留意点

粳米は消化性を高めるため、概ね1mm以下の粒度となるよう加工処理する必要があります。また、粗飼料を十分に食べさせることが大切です。

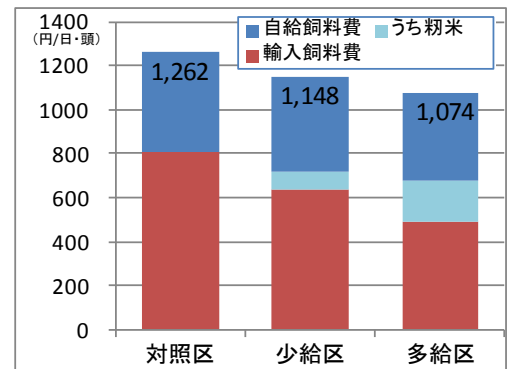


図3 飼料費の比較